

(3) ②様式第3号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

NITS・教職大学院等	実施機関名・連携機関名 実施機関：上越教育大学教職大学院 連携機関：長野県教育委員会（長野県総合教育センター）
コラボ研修プログラム	事業名：長野県教育委員会と上越教育大学教職大学院連携講座 ～今日的教育課題と未来の教育を見据えた研修講座～
支援事業報告書	研修等名：【NITS・上越教育大学教職大学院コラボ研修】 長野県教育委員会と上越教育大学教職大学院連携講座 ～今日的教育課題と未来の教育を見据えた研修講座～
	開催日時：①令和5年7月21日、②8月23日、③8月24日、④9月5日、⑤9月6日 各日とも9時40分～16時10分 開催場所：長野県総合教育センター（長野県塩尻市片丘南唐沢 6342-4） 参加人数（総数）と参加者の属性：計5回総数 148人 属性内訳（小学校 68人、中学校 54人、高等学校 10人、義務教育学校 2人、特別支援学校 14人） 講座毎の内訳（①15人、②37人、③30人、④34人、⑤32人）

内容：※全体発表の内容をテーブ起こしするなど、具体的に記載してください。研修等の様子は、写真を右に貼り付けてください。

① 7月21日（金） 特別の教科 道徳 ～道徳科授業づくりの理論と実践～

講師：上越教育大学大学院学校教育研究科 教授 早川裕隆

上越教育大学上廣道徳教育アカデミー 特任教授 櫻井雅明

内容：道徳科の授業の意義や在り方に関する講義と、小・中学校それぞれの教材を使った模擬授業（演習を通し、主題やねらい、中心発問基本発問の作成の在り方、主題やねらいに応じて適切に活用する指導方法など）を実践的に学び、道徳科の効果的な授業が展開できる授業力や、カリキュラムマネジメント力の向上を目指した演習を行なった。

② 8月23日（水） 表現力と深い学びを引き起こす国語授業 ～音声言語表現指導と思考操作～

講師：上越教育大学大学院学校教育研究科 教授 片桐史裕、教授 古閑晶子

内容：午前の講義では、フリーアナウンサー草田道代氏を講師に招き、朗読、アナウンス等の練習をし、それを通して、効果的な音声表現指導を考える演習を行なった。午後の講座では、国語の見方・考え方を働かせながら、伝え方も見出し表現を創りかえていく深い学びに必要な思考操作や問いの質的向上について参加者同士で考える演習を行なった。

③ 8月24日（木） 効果的な集団づくり ～これからの学級・学年経営～

講師：上越教育大学 名誉教授 廣瀬裕一

上越教育大学大学院学校教育研究科 教授 阿部隆幸

内容：午前の講座では、学年のリーダーはどんな連絡調整及び指導、助言をすべきかについて、講義や具体的な実践場面に即した演習を通し、法令を踏まえた判断行動ができるよう学びの場を作ることができた。午後の講座では、『『個別最適な学び』『協働的な学び』が成立する学級経営とは?』を問いとし、講義・演習を通し、「学習者の時代」を支える学級経営について参加者がグループを作り、考えた。

④ 9月5日（火） ICTを活用した授業づくり ～教科学習における効果的な ICT 活用～

講師：上越教育大学大学院学校教育研究科 教授 大島崇行

内容：『『ICTを活用した主体的・協働的な学び』ICTを活用した主体的・協働的な学習をどう創るか?』をテーマに、授業づくりの背景となる考え方と実際について講義し、演習を通し授業づくりのコツや考え方を体感できる内容構成とした。

⑤ 9月6日（水） 小中学校における特別支援教育 ～多様な児童生徒の実態把握と指導・支援～

講師：上越教育大学大学院学校教育研究科 教授 藤井和子、講師 坂口嘉菜

内容：多様な児童生徒の実態把握の意義と方法、個のニーズに応じた指導・支援の在り方、自立活動や各教科等の授業づくりについて実態把握の基本、行動面の実態把握、言語面学習面の実態把握について、講義と実践事例や演習を通して具体的に学べる場を作った。

成果： ※参加者の声など客観的な情報・データとともに記入して下さい。

<参加者の声>

- ・役割演技の子ども（役）の言葉を瞬時に聞き分けどこに繋げていくか、さらにどう深めていくか、教材を深く知りえていないとできないことと思い、そこにある価値の大切さを改めて感じた。
- ・子どもたちの個々の見方・考え方を受け取り、そのズレをチャンスとして、授業や活動を編める教師でありたいと思った。
- ・自分の今までのやり方はまだ「指導」の色が濃いことに気づけたので、「学び」に向かえるよう少しずつでも変化させていく必要性を感じた。
- ・子どもたちを信じて、お互いが自由に教えたり学び合えたり、わからないことをわからないと言い合える空気の授業にしていきたい。
- ・普段の子どもたちとの関わりの中でも、無意識に「〇〇だから仕方がない」と決めつけ諦めていたのかもしれない。自分一人で全てを抱えるのではなく、様々な先生方と情報を共有し、協力しながら指導に当たってきたい。

アイデアや工夫したこと： ※3～5つ程度の箇条書きしてください。

- ・講座内容は、長野県教育委員会（長野県総合教育センター）と協議し、長野県の教育事情、ニーズをもとに設定し、講師を選定した。
- ・講師側が一定の解を提供するのではなく、参加者同士が協働し自身の文脈において見方や解決策を見出す演習を行なった。
- ・講座で完結するのではなく、それぞれが自分の学校に戻った時にやることまでを考え、実行することまでを想定した講座の進め方をした。
- ・講座では、大学教員側が理論的な部分を、長野県総合教育センター職員が演習的な部分を担当し、双方で講座を創り上げた。

<写真・図など> ※会場の熱気や規模がわかる写真、参加者の表情がわかる写真（寄って撮影またはトリミング）を撮影してください。

